■後醍醐天皇　　96代天皇。親政への執念で，鎌倉幕府を倒して建武政権を樹立するも瓦解し。南北朝分裂を招いた。
ごだいごてんのう
・・・・・・1288＝　　生。後宇多天皇の第２皇子。母は談天門院藤原忠子。

平禅門の乱・1293＝ 5歳：

永仁徳政令・1297**＝ 9歳：**

当時，皇統は大覚寺・持明院両統に分裂していたが，

後二条天皇・1301＝13歳：兄の第１皇子が後二条天皇として即位，
・・・・・・1302＝14歳：親王宣下。

・・・・・・1304＝16歳：大宰帥となる。

・・・・・・1306**＝18歳：**
_大覚寺統の後宇多は第１皇子である後二条天皇の子邦良に皇位を伝えようとし，
将軍追放交替1308＝20歳：**_邦良幼少時の中継ぎとして持明院統の花園天皇の皇太子に立つ。**

儀式典礼に関心深く，学問・和歌など諸道に意欲的である一方，一生の間に20人前後の女性に40人近い子女を産ませたように，絶倫な精力の持主であった。

・・・・・・1315**＝27歳：**

後醍醐天皇・1318＝30歳：**_即位。**
_以後，宋学はじめ中国に強い関心を示し，幕府によって制限されたしまった王権を取り戻すべく，

後醍醐親政始1321＝33歳：***親政開始。強烈な個性をその政治に発揮する。それは著書「建武年中行事」「建武日中行事」等に結実する朝儀復興にとどまらず，綸旨に万能の力を与え，官位と家格の関係の固定化を打破して日野資朝，日野俊基らを登用したように，みずからの意志で貴族を位置づけ，寺社の神人・寄人に対する支配を排除しようとするきわめて専制的な意図を秘めており，親政機関の記録所の動きも活発であった。皇位を左右する鎌倉幕府が否定さるべき存在となるのは当然で，**
正中の変・・1324**＝36歳：_腹心の貴族や武家を，律僧や非人を集めた無礼講の場を設けて討幕計画，その失敗後も断念せず，**
北条氏外執権1326＝38歳：**_皇太子邦良の死後，幕府が後伏見天皇の皇子量仁(光厳天皇)を皇太子としたため，地位はさらに危くなり，中宮禧子の懐妊理由に，自ら法服を纏って真言密教による幕府調伏祈祷を始めて，4年続け，**
疎石円覚寺・1329＝41歳：この年行った祈祷が性的な"聖天供"であったことも，その異様さが伺える。
・・・・・・1330＝42歳：**_再び討幕に向かって動き出す。しかし，南都北嶺に皇子を入れ，みずから行幸して衆徒を味方につけるとともに，関所停止令を発して商工民をひきつけ，悪党を組織して討幕に驀進したため，近臣吉田定房，北畠親房は危惧を抱き，**
元弘の変・・1331＝43歳：***計画は幕府にもれ，捕らわれて隠岐に流される。この失敗にもめげず，出家を拒否し元弘の元号を使いつづけ，護良親王，楠木正成の軍事行動に呼応して，**
鎌倉幕府滅亡1333**＝45歳：*隠岐を脱出，名和長年に擁せられて船上山に構えると，再び自ら祈祷して，諸国に挙兵を呼びかけ，足利高(尊)氏らの内応を得て，ついに幕府を滅ぼし，建武新政を開始。"朕の新儀は未来の先例"という言葉のとおり，その政治は著しく専制的で，武将・貴族たちの強い反発を招き，**
南北朝分裂・1336＝48歳：**_新政は瓦解する。なおも吉野に南朝をひらき，北朝を奉ずる足利氏の幕府に対抗，京を回復する夢を抱きつづけたが，**
後醍醐天皇没1339＝51歳：***相次ぐ南軍の敗報のなか，吉野で没した。**

網野善彦「異形の王権」，松岡心平「中世を創った人々」，「日本史を変えた人物200人」，「日本史重要人物101」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，歴史有名人の死の瞬間，